



特集

## 図書館の無限の力

皆さんは図書館にどのようなイメージを持っていますか。  
 「本を借りるところ」「本を読むところ」「勉強をするところ」「くつろぐところ」など、本に関するいろんなイメージを持っていると思います。しかし、菊陽町図書館は、人と本を結びつけるための、さまざまな取り組みを行っています。本だけではない、図書館の魅力は、私たちにとってどのような価値を生み出してくれるのでしょうか。今回は、その取り組みを紹介しながら、図書館の楽しみ方や可能性について考え、図書館の無限の力を考えてみます。

## すぎなみフェスタ2012

菊陽町すぎなみフェスタ実行委員会事務局 ☎(232)4916

- 日時 11月10日(土) 午前9時開会  
※天候不良(小雨決行)の場合11日(日)に順延
- 場所 菊陽杉並木公園スポーツ広場
- 内容 人参収穫体験や人参釣り大会ほか、各種イベント、抽選会、57団体の出店販売など。  
子ども向けイベントも盛りだくさん！  
ミニ新幹線もやってくるよ！  
※詳細は「広報きくよう」11月号でお知らせします。

### 赤ちゃんハイハイ競争に参加してみませんか

- 申込方法 当日受付  
(事前受付は行いません)
- 定員 先着30人



- 「菊陽産野菜たっぷりメニュー」のレシピ募集！  
菊陽産の野菜を使ったオリジナル料理のレシピを募集します。いつも食べている野菜の葉や根の部分のほか、野菜のしぼり汁やしぼりかすなどを使って、自慢の一品をご紹介ください。あなたのアイデアで、町の特産物の魅力を再発見しましょう！
- 応募資格 町内に居住している人
- 応募条件
  - ・菊陽産の野菜を使い、手軽に作れる調理方法であること
  - ・すぎなみフェスタ当日、料理作品を持参できること
  - ・作品は1人2点まで、未発表のものに限る(応募作品は返却しません)
- 応募方法 健康・保険課または武蔵ヶ丘支所にある応募用紙(町ホームページからもダウンロード可)に必要事項を記入し、写真を添えて持参するか郵送してください。
- その他 出品者には、記念品と町特産の野菜を贈呈します。  
※作品は当日「健康づくりコーナー」に展示し、「広報きくよう」や町ホームページで紹介いたします。

- 応募期限 10月24日(水)
- 応募先 〒869-1192(住所不要)  
菊陽町役場 健康・保険課  
保健予防係

## 菊陽町の秋の祭り、開催



- 期日
  - ①歌謡祭 10月28日(日) 午前9時開場  
午前9時30分～未定
  - ②文化祭(発表) 11月3日(土) 午前9時開場  
午前9時30分～午後5時頃
  - ③文化祭(展示) 11月10日(土)～11月11日(日)  
午前10時～午後3時30分頃
- 場所 菊陽町図書館ホール
- 入場料 無料
- 主催 菊陽町文化協会

- 内容
    - ・町文化協会加盟団体による発表や展示  
和太鼓・三味線・吟詠・大正琴・琴・歌謡・フラダンス・民謡・民舞・日舞・民謡・バレエ・キッズダンス・フォークダンス・社交ダンスなどの発表
    - ・書道・写真・水墨画・俳句・切り絵・押し花・クラフトの展示
- 文化祭(展示)の日には、
- ・来場記念品プレゼント(先着順)
  - ・お楽しみ抽選会(終了後)
  - ・作品づくり体験コーナー(無料)  
切り絵、押し花、クラフトなどの作品を作って持ち帰ることができます。

菊陽町文化協会事務局 ☎(232)4917

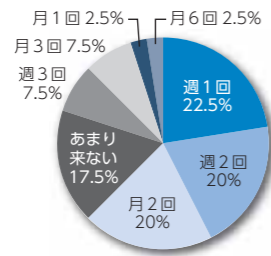
## 第36回菊陽町文化祭



みんなのキキョ

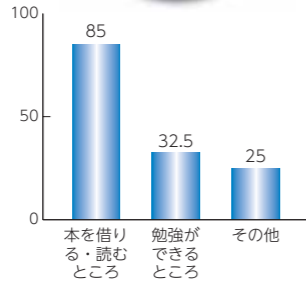
図書館に来館した40人の皆さんに、アンケートにご協力いただきました。

Q 図書館をどのくらい利用しますか？



集計の結果、「月2回以上」図書館を訪れるという人が、全体の80%もいることが分かりました。「あまり来ない」という人は17.5%でした。

Q 図書館にどんなイメージを持っていますか？ (複数回答可)



「本を借りる・読むところ」というイメージが強いことが分かります。「その他」には、▶趣味に没頭する▶くつろげる▶情報を得られるという意見がありました。

INTERVIEW



菊陽町 松本 和代  
図書館司書

分からないことがあれば、私たち司書にお尋ねください。

司書は、本の貸し出しや返却、整理・収集のほか、本と人をつなげる役割をしています。その一つに、レファレンスサービス(調べものの援助)があります。例えば、「菊陽の人参のことが知りたい」とお客様に尋ねられたとき、まずは人参の何が知りたいのかを会話の中から詳しく伺います。種類なのか、歴史なのか、人参に関する情報はたくさんあるからです。そして、求める情報に合った本を紹介したり、必要に応じてより詳しい機関を紹介したりしています。

このようなサービスをしていることを、まだ知らない人も多いと思います。分からないことがあったら、気軽に私たち司書に声を掛けてくださいね。

**分からないが分かる**  
図書館には、たくさん本や情報があります。探している情報が見つけないときは、図書館の

エキスパートである司書にお尋ねください。司書は、来館者の「分からない」が「分かる」よう相談に応じ、本を紹介したり、より詳しい機関を紹介したりして、解決への糸口を探してくれます。また、菊陽町の図書館に読みたい本がなかったとしても、新しい本を購入したり、他の図書館から本を借りたりすることで、いつでも皆さんに新鮮な情報を提供できるようにしています。

**図書館の役割**  
図書館には、個人では入手できないほど多くの種類の本や雑誌、情報があります。館内には、本に関して知識を持った職員がいて、気になる本があれば、リクエスト(本の取り寄せ)やレファレンス(調べものの援助)のサービスを受けることもできます。これらを、気軽に無料で利用できるのが図書館です。  
図書館の役割は本を貸し出すことだけではありません。本を保存することもその一つです。図書館に集められた町の歴史、行政、地域に関する資料などの情報を保存することは、将来の菊陽町の発展に大きな役割を果たす可能性もあります。

**誰でも使える場所**  
図書館には、子どもから高齢者まで、多くの方が来館します。誰でも使いやすいように、館内はバリアフリーとなっています。本棚と本棚の間の通路を広く取り、ベビーカーを押す人でも、車いすの人でも、余裕を持って通ることができるよう

町の情報拠点

熊本県内には、県立図書館が1館、市立図書館が33館、町立図書館が14

図書館は本の宝箱

図書館には、いろんな本があります。本はまるで宝石のように、一冊一冊が光り輝いています。その宝箱のような図書館は、どんな役割があり、どんなサービスが行われているのでしょうか。





ひろし  
あべ弘士さん  
×  
本の魅力



絵本作家・画家  
あべ弘士さん

1948年北海道旭川市生まれ。1972年から旭山動物園の飼育係になる。哲学をゴリラに、絵をゾウに学ぶ。1997年に動物園を退職、絵本作家に専念。『あらしのよるに』『ゴリラにつき』『エゾオオカミ物語』など著書多数。

本は宝物一。  
ページをめくるワクワク感がたまらない

**私**は、「本」は人類が生み出した最高の宝物の一つだと思っています。大切なものを残すために、人は文字を発明して言葉を伝えてきました。それを写して、文章を一冊にしたものが本です。不思議なこと、本の形はこの国で作っても変わらないんですよ。ということは、本は人間が考え出す共通の普遍的に美しい形だということです。私はこの本の形そのものも好きなんです。

本はページをめくるごとに次に何が来るのかというワクワク感があります。また、本の感覚や匂いを感じることもできます。これは、電子書籍とは違う本の魅力の一つだと思いますね。

**今** 回、子どもたちと一緒に動物の壁画を作るというワークショップをしました。子

どもはどんな発想を持っているかわかりません。下絵を無視して自由に色を付けても、最後には絵になるところがおもしろいですね。私自身、楽しみながら絵を描くことができました。大好きな絵を描きながら仕事を遊びに、遊びを仕事にできていることは、幸せだと感じます。

**菊** 陽町の図書館は図書館ホールと隣接していますよね。私はいろんなところに講演に行きますが、隣接している施設をあまり見たことがありません。図書館と図書館ホールを自由に行き来できるから、今回のようなイベントの後に「絵本を借りに行こう」と思いうすいですね。私が行ったような企画が、皆さんの本を読むきっかけの一つになってくれればうれい



大好きなおばあちゃんに、布えほんで「いないいないばあ」をしてもらった森結菜ちゃん(3)と弟の寛汰くん(2)。布えほんをめくるごとに、みんな笑顔になりました。

ほん と  
本当の出会い

図書館と図書館ホールでは、皆さんと本が会うためにさまざまな企画や工夫をしています。その取り組みをみてみます。

おはなしの会から

図書館では、子育て支援の一つとして「おはなし会」を開いています。図書館職員やボランティア団体「おはなしの森さんさん」が、毎月第1・2水曜日に0歳から2歳向け、第4水曜日に1歳以下を対象に絵本の読み聞かせや、わらべうたのおはなし会を行っています。毎週木曜日と毎月第2・4日曜日は、どなたでも参加できます。おはなし会は、子どもたちが絵本と出会い、おはなしの楽しさに触れる場なのです。

人と本を出会わせる工夫

図書館には、テーマ図書のコナーがあります。例えば、6月の環境月間はエコに関すること、10月の読書週間は司書お勧めの本を紹介するなど、時期や事柄に合わせて、皆さんに興味を持ってもらえるように本を紹介しています。

また、仕事に役立つコーナーには、資格や就職に関する本や情報を集めています。いろんなところにきっかけを用意して、人と本を出会わせる工夫をしているのです。

「行き来」で広げる主眼

図書館ホールでは、さまざまな式典やイベントを行っています。8月18日には、北海道旭山動物園の元飼育員で絵本作家であるあべ弘士さんに、講演会と動物の壁画を描くワークショップをしてもらいました。

その企画に合わせ、図書館では、あべ弘士さんの絵本をたくさんの方に知ってもらおうと、あべ弘士さんの著書を紹介するコーナーを作ったり、夏休み期間中に毎日、あべ弘士さんの絵本・物語のおはなし会を行いました。また、イベントにも興味を持ってもらえるように、動物をモチーフにした俳句作りや動物の塗り絵、巨大なキリンのミニメントを児童コーナーに作りました。イベント終了後には、あべ弘士さんの絵本を求めるたくさんの人が、図書館を訪れていました。

図書館と図書館ホールは口ビーを挟んでつながっていて自由に行き来することが出来ます。このようなお互いが連携した取り組みは、訪れた皆さんに、「本との出会い」を自然に与えているのです。

ワークショップに参加した人の声



あかつかおる 赤塚薫さん、みずきさん、みはる 心春さん (馬場)

絵に色を塗るとき、最初はバラバラになりそうで不安でしたが、はじめてみたら一枚の絵になっていて、子どもの自由な発想に感動しました。普段見られない子どもの塗り方も知れて良かったです。



しみずきやこ 清水清子さん、よしの 弥乃さん、ひなせ 陽生さん (上津久礼)

大きな絵に、自由に色が塗れて楽しかったです。あべさんの絵本が好きなので、あべさんと一緒にこのような体験ができて、とてもいい思い出になりました。大人になってもしっかりと思いつくと思います。

ブックスタートに参加した人の声



たなかたかあき 田中貴章さん、みきこ 美紗子さん、たいせい 大聖くん (下原)

絵本は普段から読んであげています。まだ意味は分からないと思いますが、いろんなことを吸収してのびのびと元気に育ってほしいです。図書館のおはなし会にも今度行ってみたいと思います。



つかもとゆり 塚本由梨さん、はるき 晴己くん (新山)

2歳の息子は、車や動物の話が載っている紙芝居に興味を持って何回も「読んで」と言ってきます。子どもたちには本をとおしているんなことを知って、視野を広げていってほしいです。



「図書館に行けば何かあるのではないか」と思われる図書館に一。



こばやし たかし  
鳥取県立図書館 小林 隆志 課長

全国の公立図書館有志が、「Jリーグなどのプロスポーツチームと連携し、スポーツや読書の楽しさを相互に理解し地域活性化につなげることを目的とした「図書館からスタジアムへ行こう！スタジアムから図書館へ行こう！」の呼び掛け人の1人。今年3月のロアッソ熊本 vs ガイナーレ鳥取戦をきっかけに、菊陽町図書館と鳥取県立図書館で互いの地元の紹介をし合った。

# 図書館の本質とは一。

## 図書館の可能性を探る

今、これからの図書館の在り方について、いろんな取り組みが行われています。図書館はどういうことができるのか、その可能性を探ります。



ほり ゆきのり  
菊陽町図書館長

「図書館は本を貸し出すだけの場所とされている人も多いかもしれませんが、図書館の持つ力はそれだけではありません」と話す堀館長。菊陽町図書館は公共図書館として地域に根ざした図書館づくりを進めています。

「図書館は本を貸し出すだけの場所とされている人も多いかもしれませんが、図書館の持つ力はそれだけではありません」と話す堀館長。菊陽町図書館は公共図書館として地域に根ざした図書館づくりを進めています。

「図書館はこういう場所」という枠はありません。

堀館長や図書館職員は「分からない」が「分かる」図書館を目指して取り組んでいます。図書館には、あらゆる情報が集まり、一カ所で広く情報を得ることが出来ます。その特徴を生かし、「困ったときは図書館へ」といえるくらい、図書館から情報発信をしていくこと。そして、発信するだけでなくレファレンスサービスを充実させることも大事です」と話す堀館長は、常に未来の図書館像を考えています。また、地域を応援する取り組みとして、サッカーJ2のロアッソ熊本と協力し「図書館からスタジアムへ、スタジアムから図書館へ」を開催しています。ロアッソ熊本の応援コーナーや対戦相手の地元文学作品、観光地の紹介などをを行い、スポーツ好きの人や来館者に、互に行き来し合うきっかけをつくる手伝いをしていきます。

「今後も図書館ホールや近隣施設との連携も含めた取り組みを考えていきたいと思っています。『図書館はこういう場所』という枠はありませんから」と話す堀館長。情報収集ができるようになった現代において、何十年先でも図書館が存在するために、いろんな可能性を見いだす努力をします。

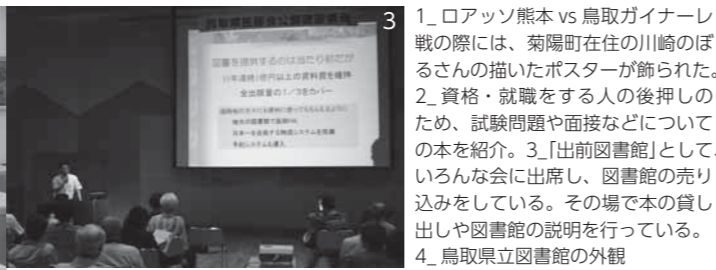
大切なのは、本を読むことへの向こう側にあることだと思えます。本を読むことは、娯楽のように思われますが、例えば、子どもが熱を出して家庭の医学を読むとき、仕事のために調べ物をしているときも、本を読むことなのです。人はいろんなところで本を使います。困ったときの情報収集のために、本(情報)は大切なツールなのです。

「課題解決型」の図書館として、悩みや不安がある人が、図書館でその解決方法を探せるよう情報提供することが求められています。図書館の特徴は、求めている主題以外の周辺の情報も

知ることができるといえる良さにあります。これは、売れる本を置く本屋とは大きく異なる点です。しかし、本で全ての問題を解決することはできません。なぜなら、ある程度の内容は分かっても「その人の場合はどうなのか」は、本だけでは調べられないからです。そんなときでも図書館には、専門家や支援策をしている人などを紹介するレフェラル(専門機関紹介)サービスというものがあります。ある司書が「図書館は人を幸せにするところ」と話していました。そのお客様のことを考えると、きにどう対応し、図書館にできないことは何かを考え

必要があると思います。私は、図書館は常にそこまでやるべきではないかと考えますし、情報十人のネットワークの提供が本場の課題解決型の図書館といえます。

図書館の使い方は無限ではありませんかと思えます。私たちは、お客様の側を立てて「図書館に行けば何かあるのではないか」と思われるような、役に立つ図書館を目指さなければなりません。図書館の取り組みとお客様の想像力の相乗効果で、図書館の可能性はますます広がっていくと思えます。



1\_ロアッソ熊本 vs 鳥取ガイナレ戦の際には、菊陽町在住の川崎のぼるさんの描いたポスターが飾られた。2\_資格・就職をする人の後押しのため、試験問題や面接などについての本を紹介。3\_「出前図書館」として、いろんな会に出席し、図書館の売り込みをしている。その場で本の貸し出しや図書館の説明を行っている。4\_鳥取県立図書館の外観



1\_ 仕事に役立つコーナーを常設し、資格や就職に関する本や情報を提供。2\_ロアッソ熊本の対戦相手チームの紹介、地元の文学作品や観光スポットのパンフレットを展示。3\_あべ弘土さんのワークショップでは、子どもたちに絵を描く楽しさと絵本への興味を湧かせました。





# 人と、本と、 図書館と歩む未来



この壁画は図書館のエントランス(ロビー)に飾ってあります。

図書館を良くするのは、私たち「人」です。  
「人」がいてこそ、本があり、図書館があります。  
図書館に秘められた無限の力とは、どういふものなのかを考えます。

## 図書館の新しい取り組み

全国の図書館で新しい取り組みが行われています。神奈川県川崎市の図書館では、09年からサッカーJ1の川崎フロンターレと協力し、大好きな選手が読んでいる本が、読書と出会うきっかけになればと、選手による子どもたちへのおはなし会や選手お勤め本の販売、リユース図書無料配布などを行っています。また、佐賀県武雄市の図書館では13年度から、書籍や音楽の販売・レンタルを行う「TSUTAYA(蔦屋書店)」を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブに運営を委託し、館内に大手コーヒーチェーンの「スターバックス コーヒージャパン」が来店することになりました。図書館の本や雑誌をコピーを飲みながら楽しめる新スタイルを提案します。

両図書館では、「図書館は本を貸し出すところ」というこれまでのイメージを超えた取り組みが考え出されています。まさに、「図書館に枠はない」を実践し、多くの人に利用される施設を目指した先進的な取り組みです。

## 「人」が未来をつくる

「本」という字の中には「人」がいます。これまで、図書館とその可能性について考えてきましたが、そこで分かったのは、図書館をつくるのも、使うのも、「人」だということです。図書館が行っている各種情報の収集・発信や子どもたちのためのおはなし会、また図書館ホールでのイベントなどは、図書館に來てもらっためだけではなく、「人を育てる場」となっています。

人は、まちづくりの主役です。あべ弘士さんとのワークショップで子どもたちが色を付けた一枚一枚の板は、一見バラバラに見えますが、いろんな個性の絵が集まって一枚の壁画ができました。これは、多様な考え方を持つ人たちが共に暮らすまちづくりを表しているようにも見えます。

図書館は、無限の力を秘めています。「図書館」と歩む未来。菊陽町の未来は、私たちがつくっていくかなければなりません。そのために菊陽町図書館は、「人」がつくる未来を支えるお手伝いをし続けます。

特集 図書館の無限の力(完)

